

東奥日報

2022年(令和4年)12月21日(水曜日) (16)



星野 保 八工大工学科生命環境科学コース教授

砂浜にキノコ? と疑問に思う方もいるだろう。時期を選べば確かにいるのだ! それも波打ち際のそばまで!!

私の好きなガマンノホタケには、その名もスナハマガマンノホタケという種がいる。スナハマガマンノホタケの生息地は、青森県が世界一多い(そして市町村別に見れば、東通村になる)。これは私くらいしか探す人がいないからです。スナハマガマンノホタケが県内で初めて記録されたのは、青森市の合浦公園。青森きのこの会湯口竹幸さんが発見した。

そんな奇妙なキノコしか砂浜に生えないと思うかもしれない。それは違う。写真を見て分かるように、傘のある想像通りのキノコも砂浜に生えているのだ。

<9> 砂浜のはかなげなものたち

生き抜く小さな開拓者

塩気を含んだ風が吹き、日差しを遮る物のない砂浜は、生き物にとって過酷な環境だ。そんな場所に生きている菌類たちは、それぞれの能力を生かして生き抜いている。

時に波しぶきのかかる場所にも生えるサラミノ

塩気を含んだ風が吹き、日差しを遮る物のない砂浜は、生き物にとって過酷な環境だ。そんな場所に生きている菌類たちは、それぞれの能力を生かして生き抜いている。

塩気を含んだ風が吹く、日差しを遮る物のない砂浜は、生き物にとって過酷な環境だ。そんな場所に生きている菌類たちは、それぞれの能力を生かして生き抜いている。



【写真上】私の愛するスナハマガマンノホタケ。こん棒状の部分の表面に胞子を作る。晩秋のむつ市浜奥内【同中】みきわまで写る写真を探したが、対象が小さいので残念ながら見つからなかった。八戸市大須海岸の広い砂浜にポツとキノコが生えている【同左下】サラミノシメジの仲間は代表的な砂浜のキノコだ。八戸市市川町【同右下】サラミノシメジの仲間を横から撮影。△から下の部分は砂に埋まっている。

に顔を出す。これがキノコだ。乾燥を避け、雨後に砂が湿った時や、日差しが傾き、砂も冷えた秋にキノコが出る。

それでも好天が続けば、簡単に干からびてしまっし、しけによる波浪は、砂浜の地形を変え、生息地ごと海中に持っていかれることもある。

なにもそんな不安定な所に、わざわざ住むこともないだろうと、はた目には思うのだが、彼らはそんな場所を好んでいる。不安定がゆえに、内陸から競争相手がとどまりづらい環境なのだ。不安定を克服すれば、新たな安定を得ることができ

るのだらう。われらがスナハマガマンノホタケに至っては、しけに飲み込まれることまで想定して、分布を広げているのだ!

人の目に奇異に映る砂浜のキノコは、それぞれが小さな開拓者であり、その生きざまの象徴なのだ。

※月1回掲載します。

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」